

令和6年度 第1回 長野市都市内分権審議会 議事録

日時：令和6年8月29日（木）

午後2時30分～午後4時40分

場所：長野市役所第一庁舎7階 第一・第二委員会室

議事

(1) 住民自治リフレッシュプロジェクトの推進状況について

①今年度のスケジュール及び各ワーキンググループの検討状況

資料1, 2

②令和6年度 地区ドックの概要について

資料3

③中山間地域のあり方研究会【短期的な取組】について

資料4

(1) 住民自治リフレッシュプロジェクトの推進状況について

①今年度のスケジュール及び各ワーキンググループの検討状況

議長

前回の審議会以降の進捗・検討状況については、資料2にまとめられている。資料2の検討状況を中心にご質問、ご意見を頂戴したい。

委員

住自協は内容を理解しているが、初めて委員になられた方もいるので、プロジェクトに取り組んだ背景を説明した方がよい。

議長

全く触れていない訳ではない。説明が不十分と思われた背景を言及してほしい。

事務局

資料に基づき、住民自治リフレッシュプロジェクトの実施について背景を説明

委員

規模の違う32地区の住自協があるが、存続できるのか危機感を感じている。市と協働のパートナーとして推進するために、見直しを行い、目的に合った活動ができればと考えている。

委員

今、中山間地域で検討していることは、いずれ他地区にも関係してくる。他人ごとではない。いろんな人の意見を聞きたい。

委員

募金に関する事務・地域福祉支援のあり方ワーキンググループで、32地区の中には、地区社協の残っている地区がある。地区社協の事務は、住自協の事務とは違い、一つの団体として確立している。募金額により事務手数料の収入が大きな財源となっているが、

そのことが、ワーキンググループで議論されていないのではないかと。

事務局

事務手数料が地域活動の貴重な財源となっていることと承知している。また、共同募金の一部を原資として補助制度を設け実施している。募金そのものを否定するものでない。負担の少ない募金の実施方法、地域福祉のやり方について議論が必要。具体的には、令和4年度の住自協に対する負担感のアンケートの中で、地域福祉の実施に対する負担感が大きく、市社協が行っている福祉事業の補助制度に対する申請・報告が大変であり、より柔軟な取組ができるように補助のあり方を検討するもの。

委員

地域たすけあい事業のコーディネーターは市社協の雇用となっており、同じような仕事をしている福祉ワーカーは、住自協の雇用となっている。雇用の違いが歪みにつながっているのではないかと。選択事務として地区に選択させるのであれば、コーディネーターの雇用を委託業務のような形にして自由度をもたせることが、全体の福祉を統一して実施していくうえで効果的に働くのではないかと。

事務局

地域人材は様々な雇用があり、やりにくさ、わかりにくさ、役割分担のあいまいさがあると承知している。たすけあい事業の福祉自動車運行の担い手確保が難しくなっていると聞く。コーディネーターの配置を含め、地域が主体になるのか他になるのか、根本的なところから見直していくこともワーキンググループで議論されている。

委員

福祉政策課、家庭・地域学びの課、地域活動支援課、支所等が横串を通し、連携をとり、円滑な運営ができるようにお願いします。

委員

住自協の現状として、福祉ワーカー・コーディネーターがいないところもある。地域の課題ごとに応じた専門的なサービスの創出が難しく、できていないところもあり、市が雇用してほしいとの意見もある。全地区に福祉ワーカーを配置し、地域福祉を推進してほしい。

②令和6年度 地区ドックの概要について

委員

スーパーバイザー、アドバイザーには、どんな項目をお願いしているのか。市は「評価ではない」と言っているが、何を目的に実施しているのか。

事務局

スーパーバイザーには、地区ドックの実施方法等に対して助言をいただきながら、全体構想を決めてきている。アドバイザーには、地区活動支援担当のワークショップをフ

アシリテーターとして参加、助言をいただいている。

横並びにして 32 地区の住自協を同じにする意図は全くない。より良い住民自治活動・楽しい自治の一助となる見直しにつなげていきたい。市から提案させていただくが、全部見直しができるとは考えておらず、これをきっかけに、より市と住自協が協力して取り組んでいけるように進めていきたい。どのように活かされているかを来年度以降に検証していきたい。

委員

横並びにして評価、指示はやめていただきたい。まとまった結果は、アドバイザーの研究結果となってしまうのか。

事務局

結果は、市の財産であり、ある程度公表し、住自協には活用いただきたいと考えている。アドバイザーには活用しろとか、活用するとか言っていない。地区ドックの目的を達成するためにどうしたらよいかアドバイスをいただいている。

議長

資料にあるスーパーアドバイザーの評価は、住自協の評価ではなく、地区ドックのやり方や内容について評価するという理解で良いと思われる。32地区の住自協を評価するために実施するのではないことをご理解いただければよい。

事務局

横並びとは、良い取組、効果的な取組等を全ての住自協と共有し、横展開が図れればと考えている。11月の全体会において、地区ドックの目的等を改めて説明させていただく。

議長

住自協はパートナーであるため、市からの提案を全て受け入れなくてもよいと思う。

事務局

必須・選択事務ではなく、行政の仕事として提案させていただく。受け入れられないことがあっても問題はない。市が住自協に対して一定の責任を果たしていきたい形のひとつである。

委員

評価されることを懸念しているので、各住自協によって状況が違うことを勘案いただき、11月の全体会での報告を楽しみにしている。

③中山間地域のあり方研究会【短期的な取組】について

委員

関心が高いので、9地区以外にも聞きたいとの意見があり、内容の共有化、9地区以外の中山間地域の参加をお願いしているところだが、今後の進め方を説明願いたい。

事務局

研究会については、資料・議事録等を全住自協に情報共有していく。また、重要なポイントは、連絡会議の全体会の中で説明していきたい。

委員

資料4「中山間地域のあり方研究会【短期的な取組】について」の内容に胸を打たれた。中心5地区も同じ問題があり、住民がいなかったり、区長が雇われていたり、悩みを抱えている。市が取り組んでいることが、自分の地区に活かせることが成果だと思う。

事務局

今年度は、短期的な取組として、集落支援員の導入について検討し、中・長期の取組、中山間地域の将来については、来年度以降皆さんと話し合いを続けていく。他地区も取組の成果を参考にしていただければと思う。

今年度は、研究会を立ち上げた中山間地域のみ9地区に限定させていただきたい。

委員

中山間地域と市街地の人がないのは意味合いが違う。同じような背景のある9地区であるため、中山間地域と市街地の住自協が同じ土俵での意見交換は難しい。情報共有はできるが、研究会は、9地区で研究させていただければと思う。

事務局

中山間地域固有の問題ではあるが、今後、他地区もそうなるかもしれない話題。地域が成り立たない恐れのある9地区について、集落支援員を導入できないか研究している。モデル的なものであるため検証し、その後、他地区に広げていきたいと考えているので、喫緊の課題のある9地区で進めさせていただければと思う。講演会等のご案内は、引き続き全地区にご案内していく。

委員

熱心に取り組んでいただき、住自協の方々にもご苦労いただいているが、資料の中の「最終的に地域のあり方を決めるのは地域 行政は地域を支え共につくる」という言葉は、少し違和感があり、無責任に聞こえる。

事務局

研究会を始めるきっかけとなったのは、地区からの提案・投げかけであり、地区の消滅、地区納めを危惧している声があった。当然市も一緒に考えていくが、地域をどう存続させていくのか、しまっていくのか、最終的には集落の意見を尊重したいと考えている

集落が消滅していくときに、自然消滅するのか、一定の意識をもって合意の下で形を変えていくのかは重要で、林先生の講演会の中でも、集落から人がいなくなっても、必ずしも集落が消滅するわけではなく、次に繋がっていく希望が語られていた。

地域の皆さんに自分たちの地域のこれからのあり方を考え、共有してもらいたいという思いが込められている。

委員

市と住自協で協働のパートナーとして推進できるように、市議会議員の皆様にも委員会或いは本会議で、良い方策をご提案いただければありがたい。

議長

以上で審議を終了とする。